



てっぼう水^{みず}ってなあに

たくさんの川^{かわ}の水^{みず}が、ものすごい勢^{いきお}いでなが^{なが}れる

日本は山^{やま}が^{おお}多く、川^{かわ}の上流^{じょうりゅう}の谷川^{たにがわ}は、急^{きゆう}しゃ面^{めん}になっている所^{ところ}が、たくさんあります。また、限^{かぎ}られたせまい地域^{ちいき}に、集^{しゅう}中^{ちゅう}的^{てき}に降^ふる集^{しゅう}中^{ちゅう}ごう雨^うや、かみなりのとき^うに降^ふる雷雨^{らいう}など、短^{みじか}い時間^{じかん}に、強^{つよ}い雨^{あめ}が降^ふることが^{おお}多い^{おほ}のです。

このよう^{つよ}な強^{あめ}い雨^ふが降^ふると、谷川^{たにがわ}の水^{みず}の水^{すい}位^いが何^{なん}メー^ふトルも増^{かわ}え、川^{かわ}の水^{みず}がもの^{いきお}すごい勢^{いきお}いでなが^{なが}れます。これを、てっぼう水^{みず}とい^{みず}います。

てっぼう水^{みず}による被^ひ害^{がい}

春^{はる}先^{さき}の雪^{ゆき}どけ水^{みず}や、集^{しゅう}中^{ちゅう}ごう雨^うによ^おって起^おこった、山^{やま}くずれによる土砂^{どしゃ}が、谷川^{たにがわ}の水^{みず}をせき止^とめることがあ^とります。

このせき止^とめられていた土砂^{どしゃ}が、てっぼう水^{みず}によ^{なが}っておし流^{どせきりゅう}されて土石流^{どせきりゅう}となり、ふもとの畑^{はたけ}や家屋^{かおく}をおし流^{なが}すことがあ^とります。

ことばの始^{はじ}まり

昔^{むかし}、川^{かわ}を^{りょう}利用^{りょう}して木^{もく}材^{ざい}を運^{はこ}び出^だすのに、川^{かわ}の中流^{ちゅうりゅう}を一^{いち}時^じせき止^とめて、切^きった木^{もく}材^{ざい}をうかべた後^{あと}で、木^{もく}材^{ざい}を下流^{かりゅう}まで、一^い気^きにおし流^{なが}す方法^{ほうほう}があ^とりました。これを「てっぼう流^{なが}し」とい^{はじ}っていたのが、てっぼう水^{みず}のことばの始^{はじ}まりです。（監修・国司 真）

